

ブルーノ・ラトゥール『つながりの社会学—アクターネットワーク理論入門』

邦訳参照文献

* 著者名 50 音順。

* 括弧内の漢数字は邦訳の発行年を示す。

* 複数の邦訳がある場合は、訳者が参照したものを挙げている。

[ア行]

アインシュタイン, A. (一九九一)

『特殊および一般相対性理論について』金子務訳, 白揚社. (Einstein 1920)

アボット, E.A. (二〇〇九)

『フラットランド—多次元の冒険』富永星訳, 日経 BP 社. (Abbott 1992)

インゴルド, T. (二〇一四)

『ラインズ—線の文化史』工藤晋訳, 左右社. (Ingold 2000)

ウィルソン, E.O. (一九九九)

『社会生物学 合本版』坂上昭一ほか訳, 新思索社. (Wilson 1975)

ウィンチェスター, S. (二〇〇四)

『オックスフォード英語大辞典物語』苅部恒徳訳, 研究者. (Winchester 2003)

ヴェーバー, M. (一九七二)

『社会学の根本問題』清水幾太郎訳, 岩波書店.

[カ行]

カーク, S.A. / カチンス, H. (二〇〇二)

『精神疾患はつくられる—DSM 診断の罫』高木俊介・塚本千秋訳, 日本評論社. (Kirk and Kutchins 1992)

カストリアディス, C. (一九九四)

『想念が社会を創る—社会的想念と制度』江口幹訳, 法政大学出版局. (Castoriadis 1998)

カンギレム, G. (二〇〇六)

『生命科学の歴史—イデオロギーと合理性』杉山吉弘訳, 法政大学出版局. (Canguilhem 1968/1988)

カントロヴィチ, E. (二〇〇三)

『王の二つの身体—中世政治神学研究』小林公訳, 筑摩書房. (Kantorowicz 1997)

ギーソン, G.L. (二〇〇〇)

『パストゥール—実験ノートと未公開の研究』長野敬・/太田英彦訳, 青土社. (Geison 1995)

ギデنز, A. (二〇一五)

『社会の構成』 門田健一訳, 勁草書房. (Giddens 1984)

ギブソン, J.J. (一九八六)

『生態学的視覚論——ヒトの知覚世界を探る』 古崎敬訳, サイエンス社. (Gibson 1986)

ギャリソン, P. (二〇一五)

『アインシュタインの時計 ポアンカレの地図——鑄造される時間』 松浦俊輔訳, 名古屋大学出版会.
(Galison 2003)

ギンズブルグ, G. (二〇〇一)

『歴史、レトリック、立証』 上村忠男訳, みすず書房. (Ginzburg 1999)

ギンズブルグ, G. (二〇一〇)

『チーズとうじ虫——16世紀の粉挽屋の世界像』 上村忠男訳, みすず書房. (Ginzburg 1980)

グッドマン, N. (二〇〇八)

『世界制作の方法』 菅野盾樹訳, 筑摩書房. (Goodman 1988)

グディ, J. (一九八六)

『未開と文明』 吉田禎吾訳, 岩波書店. (Goody 1977)

ケーナー, J.L. (一九九四)

『パウル・クレー——記号をめぐる伝説』 太田泰人訳, 岩波書店. (Koerner 1993)

ゴードン, D. (二〇〇一)

『アリはなぜ、ちゃんと働くのか——管理者なき行動パタンの不思議に迫る』 池田清彦・池田正子訳,
新潮社. (Gordon 1999)

コールハウス, R./マウ, B. (二〇一五)

『S, M, L, XL+——現代都市をめぐるエッセイ』 太田佳代子・渡辺佐智江訳, 筑摩書房. (Koolhaas and
Mau 1995)

ゴフマン, E. (一九七四)

『行為と演技——日常生活における自己呈示』 石黒毅訳, 誠信書房. (Goffman 1959)

コルビュジエ, L. (一九六七)

『ユルバニスム』 樋口清訳, 鹿島出版会.

[サ行]

サール, J. (一九九七)

『志向性——心の哲学』 坂本百大訳, 誠信書房. (Searle 1995)

サッチマン, L. A. (一九九九)

『プランと状況的行為』 佐伯胖監訳, 産業図書. (Suchman 1987)

サルトル, J-P. (二〇〇七 - 八)

『存在と無——現象学的存在論の試み』松浪信三郎訳, 筑摩書房. (Sartre 1993)

シェイピン, S./シャッフアー, S. (二〇一六)

『リヴァイアサンと空気ポンプ——ホップズ、ボイル、実験的生活』吉本秀之・柴田和宏・坂本邦暢
訳, 名古屋大学出版会. (Shapin and Schaffer 1985)

ジェームス, W. (一九四〇)

『心理学の根本問題』松浦孝作訳, 三笠書房. (James 1890)

シュミット, J.C. (一九九六)

『中世の身ぶり』松村剛訳, みすず書房. (Schmitt 1990)

ジュリアン, F. (二〇〇二)

『道徳を基礎づける——孟子 vs. カント、ルソー、ニーチェ』中島隆博・志野好伸訳, 講談社. (Jullien 1995)

ストラム, S. (一九八九)

『人とヒヒはどこまで同じか』榎本知郎訳, どうぶつ社. (Strum 1987)

セール, M. (一九七四)

『ヘルメス〈3〉翻訳』豊田彰・輪田裕訳, 法政大学出版局. (Serres 1974)

セール, M. (一九九六)

『解明 M.セールの世界——B.ラトゥールとの対話』梶野吉郎・竹中のぞみ訳, 法政大学出版局. (Serres
1995)

ソーカル, A.D./ブリクモン, J. (二〇〇〇)

『「知」の欺瞞——ポストモダン思想における科学の濫用』田崎清明・大野克嗣・堀茂樹訳, 岩波書店
(Sokal and Bricmont 1999)

[タ行]

タルド, J-G. (一九八九)

『世論と群集』稲葉三千男訳, 未来社. (Tarde 1893/1999)

タルド, J-G. (二〇〇八 a)

『社会法則』『社会法則／モナド論と社会学』村澤真保呂・信友建志訳, 河出書房新社. (Tarde 1899/2000)

タルド, J-G. (二〇〇八 b)

『モナド論と社会学』『社会法則／モナド論と社会学』村澤真保呂・信友建志訳, 河出書房新社. (Tarde
1895/1999)

チャンドラー, A.D. (一九七九)

『経営者の時代——アメリカ産業における近代企業の成立 (上) (下)』鳥羽欽一郎・小林架裳治訳, 東
洋経済新報社. (Chandler 1977)

ディドロ, D. (一九五八)

『ダランベールの夢——他四篇』新村猛訳, 法政大学出版局. (Diderot 1964)

デスコラ, P. (近刊)

『自然と文化を超えて』中沢新一・檜垣立哉他訳, 水声社. (Descola 2005)

デュエイ, J. (二〇一〇)

『公衆とその諸問題』植木豊訳, ハーベスト社. (Dewey 1927/1954)

デュエイ, J. (二〇〇九)

『哲学の改造』清水幾太郎・清水禮子訳, 岩波文庫. (Dewey 1930)

デュエム, P. (一九九一)

『物理理論の目的と構造』小林道夫・熊谷陽一・安孫子信訳, 勁草書房. (Duhem 1904)

デュモン, L. (二〇〇一)

『ホモ・ヒエラルキクス——カースト体系とその意味』田中雅一・渡辺公三訳, みすず書房. (Dumont 1982)

デュルケム, E. (一九七八)

『社会学的方法の規準』宮島喬訳, 岩波書店. (Durkheim 1966)

デュルケム, E. (一九七五)

『宗教生活の原初形態 (上)』古野清人訳, 岩波書店. (Durkheim 1915/1947)

デュルケム, E. (一九五六)

『プラグマティズムと社会学』福鎌忠恕・福鎌達夫訳, 関書院. (Durkheim 1955)

デリダ, J. (二〇一〇)

『アーカイヴの病』福本修訳, 法政大学出版局. (Derrida 1995)

デリダ, J. (二〇一二)

『グラマトロジーについて 上』足立和浩訳, 現代思潮新社. (Derrida 1998)

ド・ルージュモン, D. (一九九三)

『愛について』鈴木健郎・川村克己訳, 平凡社. (de Rougemont 1972)

ドゥ＝ヴァール, F. (二〇〇六)

『チンパンジーの政治学——猿の権力と性』西田利貞訳, 産経新聞社. (De Waal 1982)

ドゥルーズ, G. (二〇一五)

『褻——ライブニッツとバロック』宇野邦一訳, 河出書房新社. (Deleuze 1993)

[ナ行]

ノーマン, D.A. (二〇一五)

『誰のためのデザイン? ——認知科学者のデザイン原論』岡本明・安村通晃・伊賀聡一郎・野島久雄・

- 野島久雄訳, 新曜社. (Norman 1988)
- ノーマン, D.A. (一九九六)
- 『人を賢くする道具——ソフト・テクノロジーの心理学』佐伯胖・八木大彦・嶋田敦夫・岡本明・藤田克彦訳, 新曜社. (Norman 1993)
- [ハ行]
- ハーシュマン, A.O. (二〇一四)
- 『情念の政治経済学〈新装版〉』佐々木毅／旦祐介訳, 法政大学出版社. (Hirshman 1977)
- バーン, R./ホワイトマン, A. (二〇〇四)
- 『マキャベリの知性と心の理論の進化論——ヒトはなぜ賢くなったか』藤田和生・山下博志・友永雅己監訳, ナカニシヤ出版. (Byrne and Whiten 1988)
- バウマン, Z. (二〇〇一)
- 『リキッド・モダニティ——液状化する社会』森田典正訳, 大月書店. (Bauman 2000)
- ハッキング, I. (二〇〇六)
- 『何が社会的に構成されるのか』出口康夫訳, 岩波書店. (Hacking 1999)
- バトラ, S. (一九三五)
- 『エレホン——山脈を越えて』山本政喜訳, 岩波書店. (Butler 1872)
- ハラウェイ, D.J. (二〇〇〇)
- 『猿と女とサイボーグ——自然の再発明』高橋さきの訳, 青土社. (Haraway 1991)
- ハラウェイ, D.J. (二〇〇七)
- 『サイボーグ・ダイアローグズ』高橋透・北村有紀子訳, 水声社. (Haraway 2000)
- パワーズ, R. (二〇〇一)
- 『ガラティア 2.2』若島正訳, みすず書房. (Powers 1995)
- ハワード, S.B. (一九九三)
- 『アウトサイダーズ——ラベリング理論とはなにか』村上直之訳, 新泉社. (Howard 1991)
- ヒューズ, T.P. (一九九六)
- 『電力の歴史』市場泰男訳, 平凡社. (Hughes 1983)
- フォイヤー, L.S. (一九九一)
- 『インシュタインと科学革命——世代論的・社会心理学的アプローチ』村上陽一郎・大谷隆昶・成定薫訳, 法政大学出版社. (Feuer 1974)
- フォックス＝ケラー, E. (二〇〇一)
- 『遺伝子の新世紀』長野敬・赤松真紀訳, 青土社. (Fox-Keller 2000)
- フーコー, M. (一九七七)

- 『監獄の誕生——監視と処罰』田村俶訳, 新潮社. (Foucault 1975)
- フーコー, M. (二〇〇七)
- 『ミシェル・フーコー講義集成〈6〉——社会は防衛しなければならない』石田英敬・小野正嗣訳, 筑摩書房. (Foucault 2003)
- フーコー, M. (一九八六)
- 『性の歴史I 知への意志』渡辺守章訳, 新潮社. (Foucault 1990)
- フーコー, M. (一九九九)
- 『ミシェル・フーコー思考集成 II』蓮実重彦・渡辺守章監修, 筑摩書房
- フーコー, M. (二〇〇七)
- 『ミシェル・フーコー講義集成 6——社会は防衛しなければならない』石田英敬・小野正嗣訳, 筑摩書房.
- フーコー, M. (二〇一一)
- 『臨床医学の誕生』神谷美恵子訳, みすず書房. (Foucault 1973)
- プラトン (一九七六)
- 『国家』『プラトン全集 11』藤沢令夫訳, 岩波書店.
- ブリクス, H. (二〇〇四)
- 『イラク大量破壊兵器査察の真実』伊藤真訳, DHC. (Blix 2004)
- ブルア, D. (一九八五)
- 『数学の社会学——知識と社会表象』佐々木力・古川安訳, 培風館. (Bloor 1976/1991)
- ブルデュー, P. (二〇一〇)
- 『科学の科学』加藤晴久訳, 藤原書店. (Bourdieu 2001)
- ブルデュー, P./シャンボルドン, J.-C./パスロン, J.-C. (一九九四)
- 『社会学者のメチエ——認識論上の前提条件』田原音和訳, 藤原書店. (Bourdieu, Chamboredon and Passeron 1991)
- ベッカー, H. (二〇一六)
- 『アート・ワールド』後藤将之訳, 慶應義塾大学出版会. (Becker 1982)
- ベック, U. (一九九八)
- 『危険社会——新しい近代への道』東廉・伊藤美登里訳, 法政大学出版局. (Beck 1992)
- ベック, U./ギデンズ, A./ラッシュ, S. (一九九七)
- 『再帰的近代化——近現代における政治、伝統、美的原理』松尾精文・小幡正敏・叶堂隆三訳, 而立書房.
- ベック, U./ベック=ゲルンスハイム, E. (二〇一四)
- 『愛は遠く離れて——グローバル時代の「家族」のかたち』伊藤美登里訳, 岩波書店.

ヘッドリック, D.R. (二〇〇五)

『進歩の触手——帝国主義時代の技術移転』原田勝正・多田博一・老川慶喜・浜文章訳, 日本経済評論社. (Headrick 1988)

ベンヤミン, W. (二〇〇三)

『パサーージュ論』今村仁司・三島憲一訳, 岩波書店. (Benjamin 2002)

ポーター, T.M. (二〇一三)

『数値と客観性——科学と社会における信頼の獲得』藤垣裕子訳, みすず書房. (Porter 1995)

ポランニー, K. (二〇〇九)

『[新訳] 大転換』野口建彦・栖原学訳, 東洋経済新報社. (Polanyi 1944)

ボルタンスキー, L./テヴノー, L. (二〇〇七)

『正当化の理論——偉大さのエコノミー』三浦直希訳, 新曜社. (Boltanski and Thévenot 1991)

ボルタンスキー, L./シャペロ, E. (二〇一三)

『資本主義の新たな精神 上・下』三浦直希・海老塚明・川野英二・白鳥義彦・須田文明・立見淳哉訳, ナカニシヤ出版. (Boltanski and Chiapello 1999/2005)

ホワイトヘッド, A.N. (一九七九)

『過程と实在』山本誠作訳, 松籟社. (Whitehead 1929/1978)

ホワイトヘッド, A.N. (一九八一)

『科学と近代世界』上田泰治・村上至孝訳, 松籟社.

ポンジュ, F. (一九七一)

『物の味方』阿部弘一訳, 思潮社. (Ponge 1972)

[マ行]

マートン, R.K. (一九八三)

『科学社会学の歩み——エピソードで綴る回想録』成定薫訳, サイエンス社. (Merton 1973)

マクニール, W. (一九八五)

『疫病と世界史』佐々木昭夫訳, 新潮社. (McNeill 1976)

マトゥラーナ, H.R./ヴァレラ, F.J. (一九九一)

『オートポイエーシス——生命システムとはなにか』河本英夫訳, 国文社. (Maturana and Varela 1980)

マンフォード, L. (一九七二)

『技術と文明』生田勉訳, 美術出版社. (Mumford 1967)

モース, M. (一九七六)

『身体技法』有地亨・伊藤昌司・山口俊夫訳『社会学と人類学 II』弘文堂.

モリソン, P./モリソン, P. (一九八三)

『パワーズ オブ テン——宇宙・人間・素粒子をめぐる大きさの旅』村上陽一郎・村上公子訳, 日本経済新聞出版社. (Morrison and Morrison 1982)

モル, A. (二〇一六)

『多としての身体』浜田明範・田口陽子訳, 水声社. (Mol 2003)

[ラ行]

ラトゥール, B. (一九九九)

『科学がつくられているとき——人類学的考察』川崎勝・高田紀代志訳, 産業図書. (Latour 1987)

ラトゥール, B. (二〇〇七)

『科学論の実在——パンドラの希望』川崎勝・平川秀幸訳, 産業図書. (Latour 1999d)

ラトゥール, B. (二〇〇八)

『虚構の「近代」——科学人類学は警告する』川村久美子訳, 新評論. (Latour 1993)

ラトゥール, B. (二〇一一)

「〈社会的なもの〉の終焉——アクターネットワーク理論とガブリエル・タルド」村澤真保呂訳『VOL』5, 以文社. (Latour 2002)

ラトゥール, B. (二〇一七)

『法が作られているとき——近代行政裁判の人類学的考察』堀口真司訳, 水声社. (Latour 2002)

リビングストン, D.N. (二〇一四)

『科学の地理学——場所が問題になるとき』梶雅範・山田俊弘訳, 法政大学出版局. (Livingstone 2003)

リップマン, W. (一九八七)

『世論 上・下』掛川トミ子訳, 岩波書店. (Lippmann 1922)

リップマン, W. (二〇〇七)

『幻の公衆』河崎吉紀訳, 柏書房. (Lippmann 1927/1993)

リンチ, M. (二〇一二)

『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』水川喜文・中村和生訳, 勁草書房. (Lynch 1985)

ルーマン, N. (二〇〇〇)

『法の社会学的観察』土方透訳, ミネルヴァ書房 (Luhmann 1985)

ルロワ=ゲーラン, A. (二〇一二)

『身ぶりと言葉』荒木亨訳, 筑摩書房. (Leroi-Gourhan 1993)

レイヴ, J. (一九九五)

『日常生活の認知行動——ひとは日常生活でどう計算し、実践するか』無藤隆・中野茂・山下清美・中村美代子訳, 新曜社. (Lave 1988)

[ワ行]